

平成21年度研究調査報告

1 修学旅行の実施状況調査

2 修学旅行の課題調査

『修学旅行に向けての取組みについて』

【感性をはぐくむ修学旅行の探究】

平成22年3月

財団法人 全国修学旅行研究協会

目 次

I 調査研究のねらい	1
II 調査概況	1
1 調査の対象	
2 回答の状況	
3 調査の時期	
4 調査内容	
III 実施概況	2
1 実施時期	
2 実施日数	
3 実施方面	
4 地区別費用区分	
4-2 方面別費用区分	3
4-3 方面別平均費用（関東地区）	
(1) 不参加生徒の有無	
(2) 理由別不参加の延校数と生徒数	
IV 連合体の新大阪以西の利用について（関東地区）	
1 広島まで利用可能となった場合	4
1-2 連合体利用状況別	
2 費用増額となるが利用を希望されるか	
2-2 連合体利用状況別	
V 修学旅行に向けての取組みについて	6
1 修学旅行を実施するにあたり、最も期待されている内容は何か	
2 その期待に向けて、訪問地で最も重視した活動はどのようなこと	
3 どのような直接体験活動が組み込まれたか	
4 その活動の良かった事、また課題となったことはどのようなことがありますか	
VI まとめ	10

I 調査研究のねらい

修学旅行は特別活動の学校行事『旅行・集団宿泊的行事』に位置づけられる。学習指導要領によれば特別活動の目標は「望ましい集団生活を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてより良い生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方について自覚を深め、自己を生かす能力を養う」とある。

また、旅行・集団宿泊的行事の内容は、「平素と異なる生活環境にあつて、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、集団生活のあり方や公衆道徳などについて望ましい体験を積むことができるような活動を行うこと」とある。

各学校においては、修学旅行のねらいや修学旅行で育てたい能力を明確にして、活動の充実を図ることが求められる。

今年度はこれらをふまえ、大切な行事をより一層充実させるために、生徒の心(感性)に訴える行をテーマに調査集計する。感動ある修学旅行の実現を図るためには、生徒の感性に働きかける体験活動は欠かすことのできない大切なものである。自己を見直す契機となる体験は「感性をはぐくむ」出発点として重要なことと考えられる。

多くの学校が修学旅行の中で体験活動を取り入れているが、生徒の感性に働きかけ、感動や共感を顕在化していく価値を付加することでより充実した修学旅行の実現が考えられる。

本調査においては関東・東海・近畿の三地区公立中学校における修学旅行の実施状況(継続調査)と、修学旅行への取り組み(課題調査)を通して、各学校が生徒の感性にいかに関与し、狙いや目標に迫ろうとしているのか、そのための取り組みや工夫点などについて調査する。

調査していく中で、関東、東海、近畿地区それぞれ訪問地が異なることによって体験活動の内容の違いなどについても特徴がでることが分かる。

関東・東海・近畿三地区公立中学校の主な訪問地は下記のとおり。

*関東地区—関西(京都・奈良)方面へ85%、 *東海地区—関東(東京・伊豆・箱根他)方面へ82%、

*近畿地区—関東(東京・伊豆・箱根他)方面へ36%、沖縄方面へ30%

II 調査概況

1. 調査の対象

関東5県(茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉)の公立中学校

東海3県(三重・岐阜・愛知)の公立中学校

但し愛知県は県中学校長会調査データを使用

近畿2府4県(滋賀・京都・奈良・大阪・兵庫・和歌山)

2. 回答の状況(関東地区)

(校・%)

区分	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	計
調査校数	233	167	172	423	383	1,378
回答校数	171	165	144	410	370	1,260
回答率	73.4	98.8	83.7	96.9	96.6	91.4

※回答校数は有効回答校数を表示。

(東海地区)

区分	三重県	岐阜県	愛知県	合計
調査校数	165	192	406	763
回答校数	157	165	406	728
回答率	95.2	85.9	100.0	95.4

(近畿地区)

区分	滋賀県	京都府	奈良県	大阪府	兵庫県	和歌山県	合計
調査校数	97	98	107	334	267	126	1,029
回答校数	97	98	107	334	261	116	1,013
回答率	100.0	100.0	100.0	100.0	97.8	92.1	98.4

3. 調査の時期

平成21年11月

4. 調査内容

イ 実施時期・日数・旅行方面・旅行費用・不参加生徒数・他

ロ 修学旅行に向けての取り組みについて

(感性をはぐくむ修学旅行の探究)

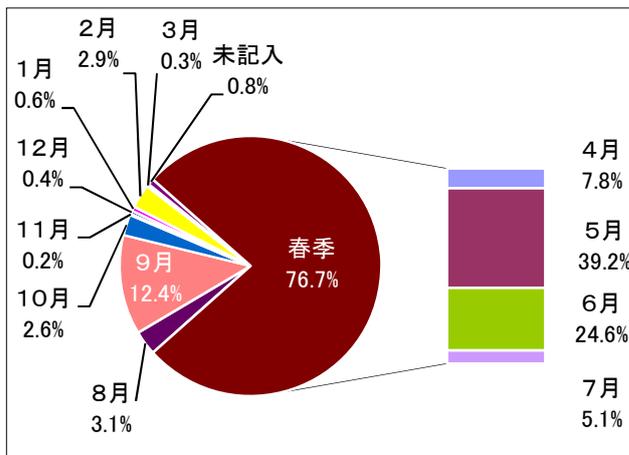
III 実施概況

1. 実施時期

例年5～6月の時期に90%以上の学校が実施しているが、今年度は新型インフルエンザの影響を受け、8～9月に延期実施となった学校が多く見られた。特に関東地区の学校において顕著である。冬季の実施は2学年においておこなわれている。

(校)

	関東	東海	近畿	計
4月	49	37	149	235
5月	444	316	415	1,175
6月	202	292	245	739
7月	109	12	33	154
8月	81		11	92
9月	259	36	77	372
10月	28	15	35	78
11月	3		2	5
12月	11		1	12
1月	15		2	17
2月	54		34	88
3月	3	1	6	10
未記入	2	19	3	24
合計	1,260	728	1,013	3,001



2. 実施日数

ほとんどの学校が2泊3日で実施している。東海地区の3泊4日の実施校は三重県で車中泊(バス・船中)を伴う学校や沖縄3泊、東京3泊の学校である。

(校)

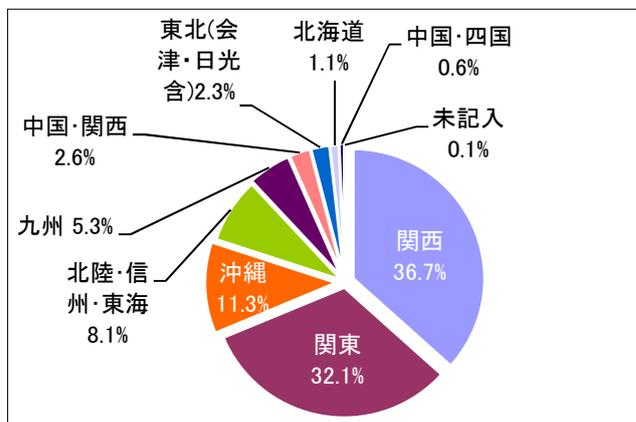
	関東	東海	近畿	計
2日間	4	1		5
3日間	1,253	720	1,013	2,986
4日間	3	7		10
合計	1,260	728	1,013	3,001

3. 実施方面

関東の中学校は85%の学校が関西(京都・奈良)方面である。東海地区は東京を中心に伊豆箱根方面、横浜、千葉方面が全体の82%を占めている。広島沖縄方面も多く見られる。近畿地区は東京を中心に関東方面と沖縄方面で66%を占める。次いで信州、九州方面が多く見られる。

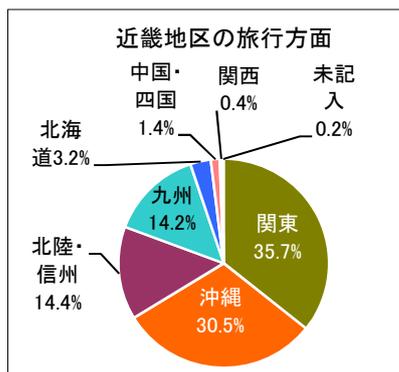
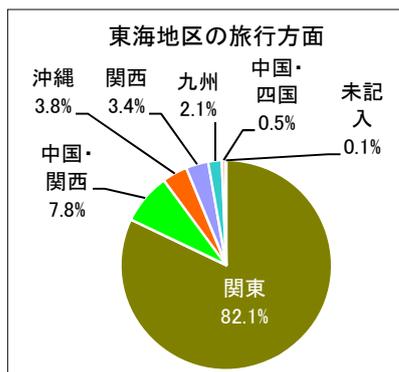
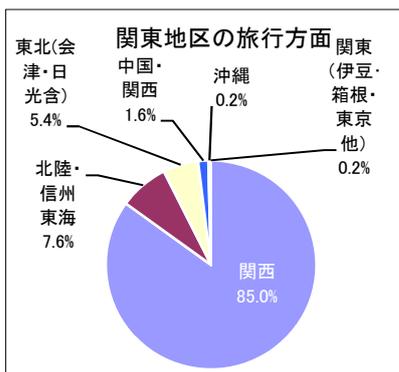
(校)

	関東	東海	近畿	計
北海道			32	32
東北(会津・日光含)	68			68
中国・関西	2	598	362	962
北陸・信州	96		146	242
東海	1,071	25	4	1,100
中国・関西	20	57		77
中国・四国		4	14	18
九州		15	144	159
沖縄	3	28	309	340
未記入		1	2	3
合計	1,260	728	1,013	3,001



* 東北方面=青森・岩手・山形・秋田・宮城、会津・日光含む

* 関東方面=東京と横浜、千葉、伊豆、箱根の組み合わせ



4. 地区別費用区分(生徒一人当たり平均額<体験活動費含む>)

利用交通機関や実施方面、内容によってかなり異なってくる。体験活動費も内容が豊富になって、工夫が見られる。高額になってきているものもある。一人当たりの平均額は58,000円前後となっている。県や市町村単位で平均額も異なってくる。

	(校)		
	関東	東海	近畿
最低額	28,000	23,000	14,288
最高額	117,969	95,000	140,220
平均額	57,855	57,974	58,410

* 旅行費用(生徒一人当たり平均額)

4-2. 方面別費用区分(生徒一人当たり平均額<体験活動費含む>)

(関東のみ)

	東北	会津・新潟・日光	伊豆・箱根	信州	北陸	東海	関西	広島・岡山・関西	沖縄	合計
3万円未満		5								5
3~4万円未満	2	15	1	10			3			31
4~5万円未満	6	13	1	40	3	1	83			147
5~6万円未満	6	3		10	14		379			412
6~7万円未満					7		364	5		376
7万円以上							83	13	3	99
合計	14	36	2	60	24	1	912	18	3	1,070

(関東のみ)

4-3. 方面別平均費用(生徒一人当たり平均額<体験活動費含む>)

(円)

	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	5県平均	最高金額	最低金額
東北	46,237		—	45,737	48,466	48,112	59,000	38,656
会津・日光					37,686	38,053	51,000	28,000
新潟・会津					45,333	45,333	50,000	41,000
那須					48,000	48,000	48,000	48,000
伊豆・箱根			30,000		45,000	37,500	45,000	30,000
信州	47,000				43,841	43,894	58,000	32,778
北陸			55,000	57,262		57,167	64,884	46,380
東海					48,000	48,000	48,000	48,000
関西	66,190	64,848	61,198	54,324	57,362	59,292	84,000	32,216
広島・関西	74,000	73,575	70,618	—		72,408	80,000	60,923
岡山・関西					65,516	65,516	65,516	65,516
沖縄		78,000	114,284			102,189	117,969	78,000
平均額	66,019	65,354	62,380	54,495	52,284	57,855	117,969	28,000

*2日間・4日間で実施の学校を除く。—は数値不明

5. 不参加生徒数について

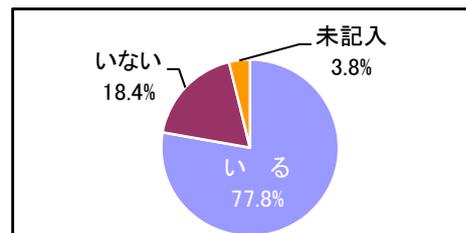
(1) 不参加生徒の有無

(関東のみ)

(校)

	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	合計
いる	137	124	97	307	315	980
いない	33	40	43	70	46	232
未記入	1	1	4	33	9	48
合計	171	165	144	410	370	1,260

*埼玉県の未記入のうち2校は不参加者数未定。

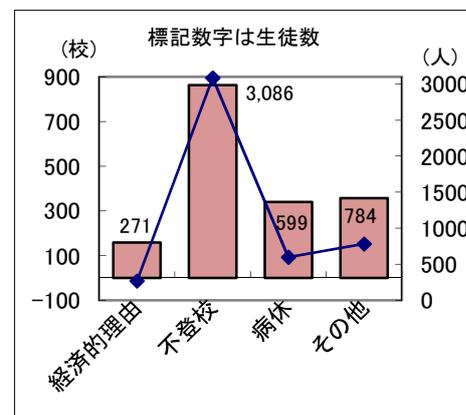


(2) 理由別不参加の延校数と生徒数

(関東のみ)

(校・人)

	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	合計
経済的理由	22	24	16	59	38	159
	39	47	32	101	52	271
不登校	111	112	80	273	287	863
	350	384	230	1,034	1,088	3,086
病休	53	40	27	123	97	340
	85	69	43	229	173	599
その他	53	39	38	134	94	358
	113	72	72	353	174	784
内訳不明	1		2	1		4
	10		3	1		14
合計	240	215	163	590	516	1,724
	597	572	380	1,718	1,487	4,754



上段: 延校数、下段斜字: 生徒数

○その他の理由 ()は校数

・別室教室(1) ・大会参加(2) ・宗教的理由(1) ・外国籍(1) ・忌引き(1) ・転校予定(1)

IV 連合体の新大阪以西の利用について

(関東のみ)

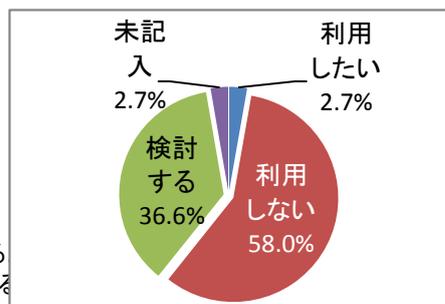
1. 広島まで利用可能となった場合

(校)

	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	合計
利用したい	5	8	6	6	9	34
利用しない	92	90	69	245	233	729
検討する	70	62	64	149	115	460
未記入	4	4	3	10	13	34
合計	171	164	142	410	370	1,257

・栃木県では22年度に1校閉校予定の為、当設問への回答校は164校である

・群馬県で22年度実施予定無しが2校あり、当設問への回答校は142校である



1-2. 連合体利用状況別

(校)

	茨城県		栃木県		群馬県		埼玉県		千葉県	
	利用校	未利用校								
利用したい	3	2	6	2	2	4	6		4	5
利用しない	57	35	61	29	14	55	185	60	97	136
検討する	44	26	48	14	18	46	121	28	83	32
未記入	1	3	3	1		3	4	6	3	10
合計	105	66	118	46	34	108	316	94	187	183

	5県合計	
	利用校	未利用校
利用したい	21	13
利用しない	414	315
検討する	314	146
未記入	11	23
合計	760	497

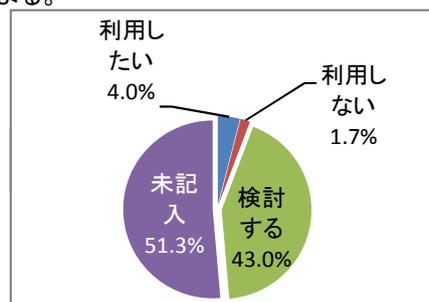
利用校区分は21年度輸送計画による。

2. 費用増額となるが利用を希望されるか

(校)

	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	合計
利用したい	3	6	6	1	5	21
利用しない	1		4	2	2	9
検討する	41	37	22	74	53	227
未記入	34	31	41	88	77	271
合計	79	74	73	165	137	528

*回答は設問1の「利用しない」学校以外。



2-2. 連合体利用状況別

(校)

	茨城県		栃木県		群馬県		埼玉県		千葉県	
	利用校	未利用校								
利用したい	1	2	4	2	2	4	1		3	2
利用しない	1				2	2	1	1	2	
検討する	27	14	27	10	7	15	64	10	35	18
未記入	19	15	26	5	9	32	66	22	50	27
合計	48	31	57	17	20	53	132	33	90	47

	5県合計	
	利用校	未利用校
利用したい	11	10
利用しない	6	3
検討する	160	67
未記入	170	101
合計	347	181

<参考> 利用希望生徒数概算

広島まで利用可能となった場合

	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	合計
連合利用校	479	1,049	125	761	802	3,216
未利用校	461	327	318	0	809	1,915
合計	940	1,376	443	761	1,611	5,131

費用増額でも利用を希望したいか

	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	合計
連合利用校	163	736	125	92	520	1,636
未利用校	461	327	318	0	258	1,364
合計	624	1,063	443	92	778	3,000

※生徒数は21年度在籍の第1学年生徒

V 修学旅行に向けての取組みについて

調査概況

調査対象

- ・ 関東5県(茨城県・群馬県・栃木県・埼玉県・千葉県)の公立中学校 1,260校/1,378校(91,4%)
- ・ 東海2県(三重県・岐阜県)の公立中学校 322校/357校(90,2%)
- ・ 近畿(滋賀県・京都府・奈良県・大阪府・兵庫県・和歌山県)の公立中学校 1,013校/1,029校(98,4%)

調査時期 平成21年11月

調査内容

○平成21年度実施の修学旅行の取組みについて

新教育課程の移行期を迎えた今、修学旅行を実施するにあたり学校としてどのような修学旅行を目指そうとしているのか、考えや実施状況を調査する。

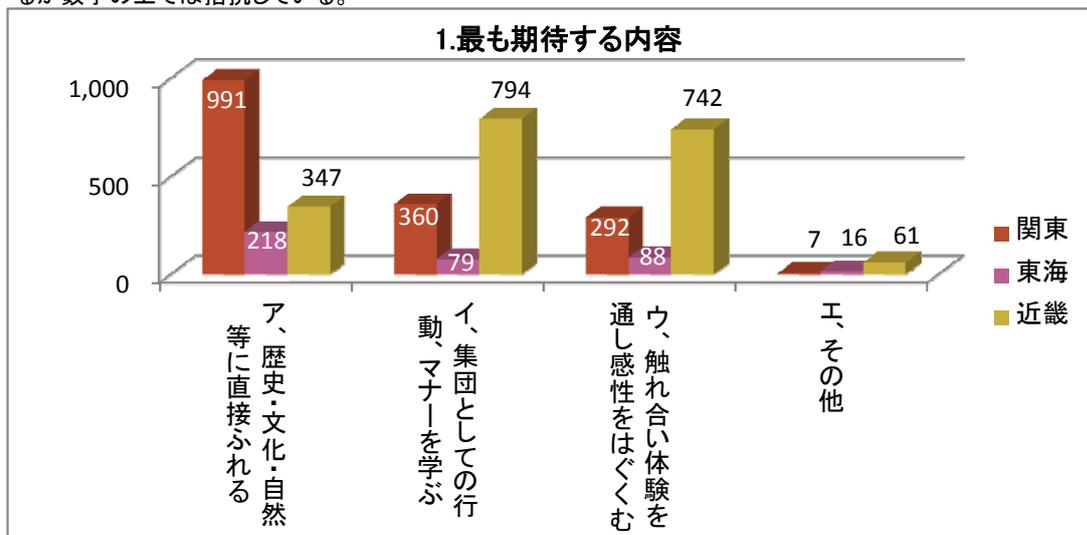
1. 修学旅行を実施するにあたり、最も期待している内容は何か。
2. その期待に向けて、訪問地で最も重視した活動はどのようなことか。
3. 修学旅行でどのような直接体験が組み込まれたのか。
4. その活動でよかったこと、課題となったことは何か。

1. 修学旅行を実施するにあたり、期待されている内容は何か (複数回答)

「三地区共通」

	関東	東海	近畿	計
ア、歴史・文化・自然等に直接ふれる	991	218	347	1,556
イ、集団としての行動、マナーを学ぶ	360	79	794	1,233
ウ、触れ合い体験を通し感性をはぐくむ	292	88	742	1,122
エ、その他	7	16	61	84
合計	1,650	401	1,944	3,995

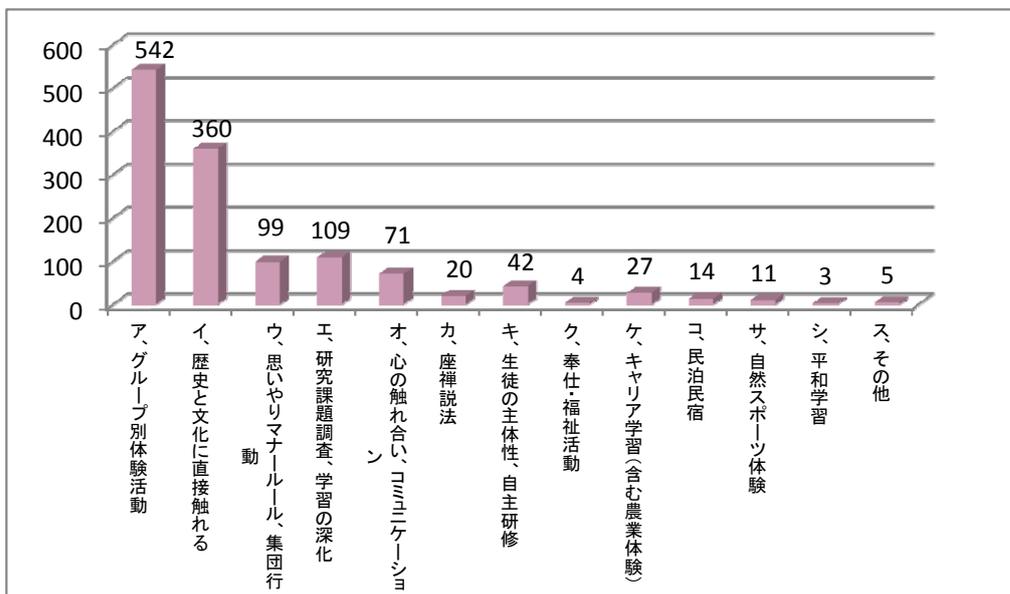
修学旅行を実施するにあたって、学校として生徒に最も期待している内容は、日常、学校の学習では得ることのできない歴史・文化・自然等に直接触れる事による学習効果というものを最も期待していることが分かる。次に期待することとして、関東地区は集団行動を通してのマナー、東海地区は触れ合いを通しての体験活動となっているが数字の上では拮抗している。



2. 期待実現に向けて、訪問地で最も重視した活動はどのようなことか

	栃木	群馬	茨城	埼玉	千葉	計
ア、グループ別体験活動	54	55	97	161	175	542
イ、歴史と文化に直接触れる	51	78	45	102	84	360
ウ、思いやりマナールール、集団行動	14	20	11	33	21	99
エ、研究課題調査、学習の深化	5		20	49	35	109
オ、心の触れ合い、コミュニケーション	4	18	9	13	27	71
カ、座禅説法	3		14	1	2	20
キ、生徒の主体性、自主研修	3		4	28	7	42
ク、奉仕・福祉活動	1		1		2	4
ケ、キャリア学習(含む農業体験)			1	1	25	27
コ、民泊民宿					14	14
サ、自然スポーツ体験					11	11
シ、平和学習	1		1		1	3
ス、その他	2		1		2	5
合計	138	171	204	388	406	1,307

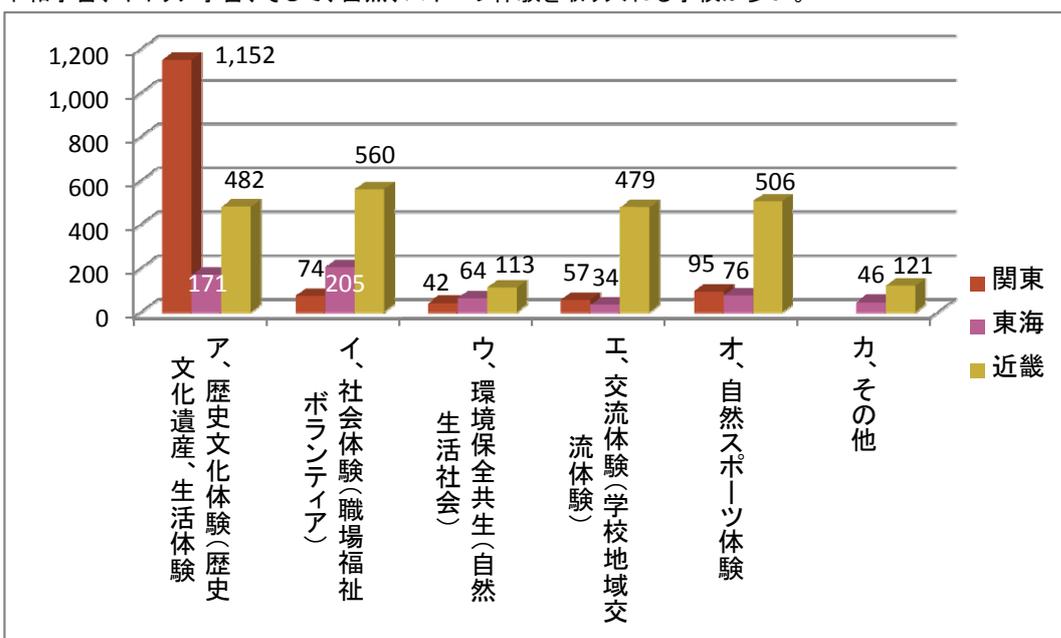
グループ別体験を通して生徒の手による計画立案を実施し、修学旅行への取組みを進めている学校が全体の32%を占めている事が分かる。関東地区の中学校では全中学校数の約87%の学校が関西(京都・奈良)方面を実施していて、古都の文化遺産、歴史と伝統に直接触れる事に主眼を置いていることが分かる。次に修学旅行が研究課題調査活動や学習の深化に繋がるものと考えている。修学旅行の取組みを通して個々の生徒の研究調査活動や学習の深化を図ろうとする取組みが見られ、教科との関連性を考えた取組みが見られる。修学旅行の目的のもう一つは集団行動、公衆道徳、マナーをいかにはぐんでいくかという事があるがこれらを重視する学校も多く見られる。



3. どのような直接体験活動が組み込まれたのか (複数回答可) 「三地区共通」

	関東	東海	近畿	計
ア、歴史文化体験(歴史文化遺産、生活体験)	1,152	171	482	1,805
イ、社会体験(職場福祉ボランティア)	74	205	560	839
ウ、環境保全共生(自然生活社会)	42	64	113	219
エ、交流体験(学校地域交流体験)	57	34	479	570
オ、自然スポーツ体験	95	76	506	677
カ、その他		46	121	167
合計	1,420	596	2,261	4,277

- ・ 関東地区—京都・奈良方面への修学旅行が圧倒的に多く歴史文化を中心とした取組みが組み込まれている。
- ・ 東海地区—東京・千葉、広島、沖縄方面と分散傾向があり、キャリア学習(事業所の訪問・見学・体験)や平和学習、人権学習等含む社会体験を組み入れる学校が多い。
- ・ 近畿地区—関東、沖縄方面が最も多く、次いで北陸、信州、九州方面となっている。東海地区同様、方面は多岐にわたる。平和学習、キャリア学習、そして、自然、スポーツ体験を取り入れる学校が多い。



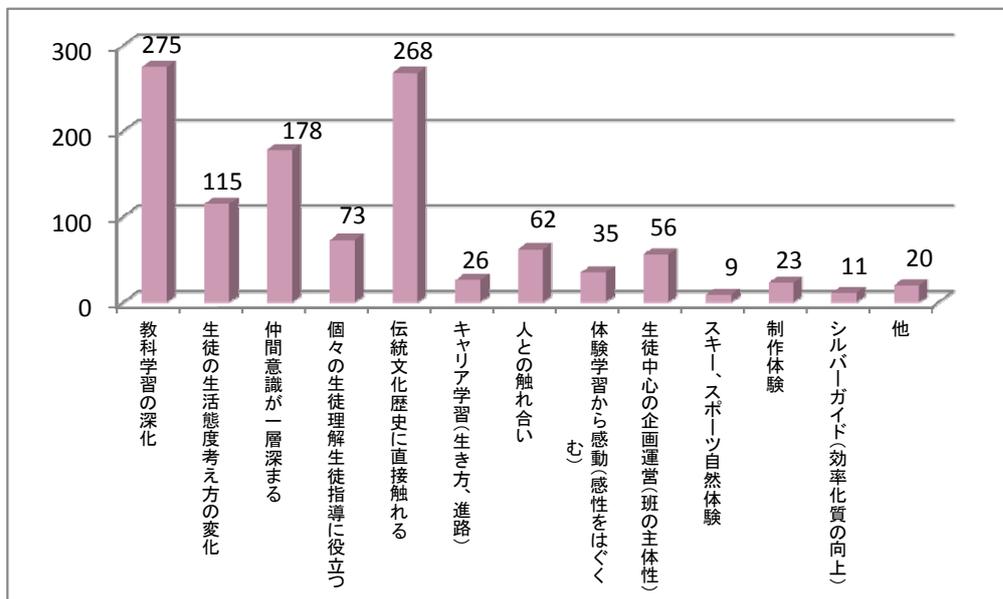
ア	イ	ウ	エ	オ
俳句	外国人取材	嵐山散策	遊覧船	事前に観光協会と連携
友禅染	ゴミ拾い	ウミホテル観察	タクシー研修	保津川下り
雅楽	果物摘果	環境学習	外国人との交流	漁体験
漆器の絵付	広島での平和学習	森林伐採体験	漁村体験	グラスボード
清水焼絵付	班別活動	洞窟・原生林体験	エイサーの交流	漁業体験
能・狂言	外国人観光客とのコミュニケーション	林業体験	民泊体験	ペーロン体験
郷土料理	ガマの講話			
民芸品	進路を語る会			
講話				
町家散策	陶芸	和菓子(ハッ橋・京菓子)作り	首里城・ひめゆり・資料館見学	
歴史文化遺産見学	ガラス細工	ハッ橋	七宝焼き	
和菓子	座禅	座禅	雅楽の鑑賞と実演体験	
着物着付け体験	京舞観賞	寺社の見学	被爆者講話	
ナイトツアー	清水焼・扇子の絵付	僧侶の法話	民舞・ソーラン節体験	
舞妓の京舞	友禅染	黒糖づくり	金箔貼り	
扇子	茶道・琴の鑑賞	茶道体験	能楽	
法話	漆塗り	絵付け	せんべい	

4. その活動の良かった事、また課題となったことはどのようなことがあるか

<良かった事> 学んだことがどのような場面で生かされているか

	栃木	群馬	茨城	埼玉	千葉	計
教科学習の深化	74	49	13	97	42	275
生徒の生活態度考え方の変化	66	16	12	21	25	115
仲間意識が一層深まる	133	16	5	6	18	178
個々の生徒理解生徒指導に役立つ	65	2	2		4	73
伝統文化歴史に直接触れる	2	24	95	23	124	268
キャリア学習(生き方、進路)			5	8	13	26
人との触れ合い		5	10		47	62
体験学習から感動(感性をはぐくむ)	2	1	7		25	35
生徒中心の企画運営(班の主体性)		2	19		35	56
スキー、スポーツ自然体験					9	9
制作体験			2	7	14	23
シルバーガイド(効率化質の向上)			2		9	11
他	1	2	6	4	7	20
合計	343	117	178	166	372	1,151

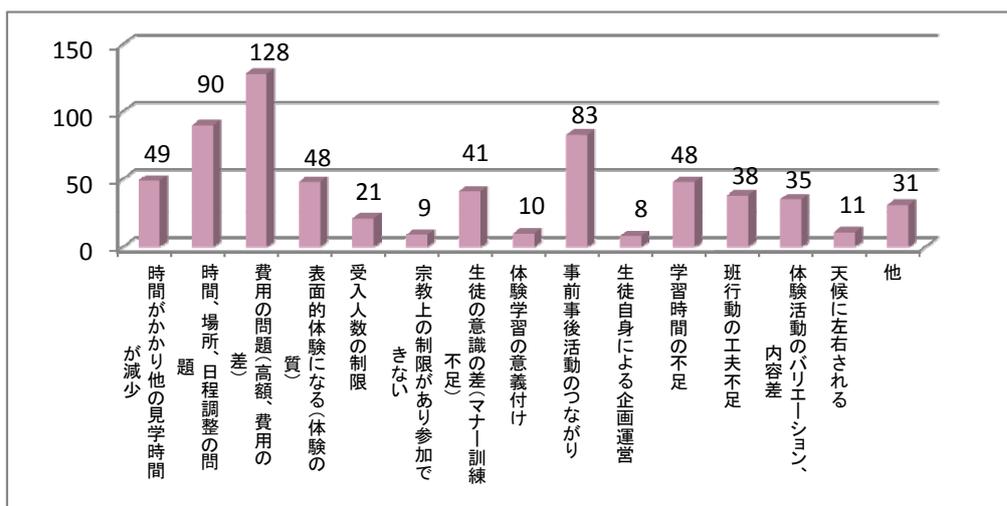
修学旅行と教科学習の深化、伝統文化歴史に直接触れる事による生徒への影響力の大きさは日常の活動では到底得ることのできないものである。修学旅行後の学習にも生かされ、その後の成長、感性をはぐくむための大きな要因となっている。修学旅行を通して一層強い仲間意識がはぐくまれたり、考え方に変化が見られるといったことも生徒の成長につながるものである。また、生徒自身の手によって企画運営することにより、生徒の自立、主体性を引き出す活動にもつながっていく様子が伺える。



<課題>

	栃木	群馬	茨城	埼玉	千葉	計
時間がかかり他の見学時間が減少	15	6	11	12	5	49
時間、場所、日程調整の問題	12	16	18	32	12	90
費用の問題(高額、費用の差)	13	11	23	34	47	128
表面的体験になる(体験の質)	5	5	10	7	21	48
受入人数の制限	5	4	1	3	8	21
宗教上の制限があり参加できない	2	2	1	1	3	9
生徒の意識の差(マナー訓練不足)	1	9	3	15	13	41
体験学習の意義付け	1	2	1	2	4	10
事前事後活動のつながり	1	14	3	57	8	83
生徒自身による企画運営	1	1	3		3	8
学習時間の不足			11	3	34	48
班行動の工夫不足		1	12	1	24	38
体験活動のバリエーション、内容差	5	5	11	1	13	35
天候に左右される					11	11
他		4	11	3	13	31
合計	61	80	119	171	219	650

約20%の学校が費用の問題を出している。体験活動をさせたい。しかし個々に係る費用の問題が重くのしかかっている。また、体験活動をさせる上で時間的なことや場所の問題、日程の調整等で苦労している様子も伺える。大きな団体がいかに効率的に満足できる体験活動を行うことができるか、今後とも学校は勿論、旅行業界としても検討を必要とするところである。総合的な学習の時間の減少に伴って、旅行に向けての学習時間の不足を訴える意見や班行動を検討したり工夫したりする時間の不足を訴える意見、また事前事後の活動に結び付けるための時間の捻出に苦労している様子も伺うことができる。また、ここに来て「体験活動の質」等で表面的なものになっていないか問うような考えが出てきている。体験ありきから、体験の質や体験の意義など学校のねらいや目標などと合致したものであるのか、体験についても教育的な意義、効果をしっかり考えたものがこれからの修学旅行では重要と考えられる。



VI まとめ

新学習指導要領によると、学校行事の内容の取扱いについて、「～また、実施に当たっては、幼児、高齢者、障害のある人々などの触れ合い、自然体験や社会体験などの体験活動を充実するとともに、体験活動を通して気付いたことなど振り返り、まとめたり、発表し合ったりするなどの活動を充実するよう工夫すること」等述べられている。

特に体験活動については、『その場限りの活動に終わらせることなく、事前にそのねらいや意義を生徒に十分理解させ、活動についてあらかじめ調べたり、準備したりすることにより、意欲をもって活動できるようにするとともに、事後には体験を通して感じたり気付いたりしたことを自己と対話しながら振り返り文章でまとめたり、発表しあったりする活動を重視し、他者と体験を共有して幅広い認識につなげる必要がある』

となっている。今回の課題調査はこれらをふまえて、修学旅行を実施するあつたって学校としてどのような修学旅行を目指そうとしているのか、期待している内容や、期待の実現に向け訪問地で最も重視した活動は何か、そして、そのためにどのような直接体験が組み込まれているのか等踏み込んだ調査をする。

今年は新型インフルエンザの影響で関東地区の中学校は多大な影響を受け、約4割の学校、生徒が当初の計画を変更することとなった。例年だと90%の学校が5～6月に実施するはずだったものが、7～9月に変更する事となり、今年の5～6月の実施は51%となった。東海地区、近畿地区においても例年よりは7～9月実施が多く見られた。

《修学旅行に向けての取組みについて》

修学旅行を実施するにあたって、学校として生徒に最も期待する内容については、関東、東海地区の学校では歴史・文化・自然等に直接触れる事による学習効果を最も期待していることがわかる。

近畿地区の学校では集団としての行動や道徳、実践力を高めること、マナーを身につけることが最も期待されているが、直接歴史等に触れる事による感動する心を育てる、感性をはぐくむことに期待をしている学校も同じぐらい多い。

関東地区の学校は85%以上の学校が京都・奈良方面への修学旅行を実施し、歴史・文化の学習に繋がっていることがわかり、近畿地区の学校は関東方面と沖縄方面とに2分され、さらに、九州、北陸方面と多方面に分散しているので、行く場所によってねらいや期待する内容も変わってくるものと考えられる。

直接体験活動についても関東地区は歴史文化に関する体験活動が圧倒しており、東海、近畿地区の場合は関東の中でも東京を基点としてキャリア学習体験、福祉ボランティア体験等の社会体験が多く組み込まれている。

近畿地区の学校で特徴的な体験活動として、自然スポーツ体験(沖縄方面)や環境保全共生(農山漁村の学習)といった体験も多く見られる。

直接体験活動の良いところは教科学習の深化におおいにプラスとなったことや、伝統文化・歴史に直接触れる事による学習効果が上げられている。

反面、費用の問題が多くあげられている。それと、時間や場所、日程調整等に苦労していることが伺える。

また、総合的な学習の時間等の減少に伴い事前・事後の活動のつながりに苦労している様子もわかる。体験の質についても本当にねらいに合致しているのかといった意見も多く見られた。

平成21年度研究調査報告
修学旅行の実施状況
修学旅行の課題調査「修学旅行に向けての取組みについて」

平成22年3月

財団法人 全国修学旅行研究協会

〒102-0074 東京都千代田区九段南2-6-8

TEL 03-5275-6651 FAX 5275-6653

E-mail shuryo@h2.dion.ne.jp

URL <http://shugakuryoko.com>